

粕谷逸男君を悼む

藤井松太郎*



国鉄本社在職時の粕谷君

日本鉄道建設公団計画部長の粕谷逸男君が52歳の若さで逝去されました。生粋の建設人として日頃頭健を誇っていた彼だけに、その逝去がにわかに信じ難い気がすると同時に、建設公団若手技術者の中心人物として重きをなし、将来に大きな期待を持たれていただけに、その逝去が惜しまれてなりません。粕

谷君は一高を経て昭和16年東京大学の土木工学科を卒業、直ちに鉄道にはいり、爾来ひたすら建設人の道をたどり数々の業跡を残されて今日に到りました。君の性格は非常に温厚で毫も出しゃばるようなところがなく、始終黙々として技術の研鑽にはげまれ、土木工学一般に深い造詣を持たれていることはもちろん、特にトンネル技術についてはわが国の權威というより、むしろ世界的權威者の一人であったと思います。粕谷君がトンネルの専門家となったそもその第一歩は、昭和21年北海道富内線の第一日振トンネルを手がけたことから始まり、その後飯田線付替の峯トンネル、大嵐トンネルを完成、東海道新幹線の多数の大トンネルに関係して、最近、津軽海峡トンネルの計画に精魂を傾けていました。富内線の第一日振トンネルはトンネル史上まれに見る難物で、頑丈なコンクリートの巻立が完成後数ヶ月たらずでばらばらに壊れるという代物であり、飯田線の峯、大嵐両トンネルはアメリカ式の重機械を駆使し、アメリカなみの

* 正会員 工博 国鉄技師長

掘進速度を出し、わが国の土木施工技術を世界的水準に引き上げたことで不朽の功績を残しています。君が最近精魂を傾けていた津軽海峡トンネルは恐らく世界第一級の大工事であり、また難工事になることも必至で、君の周到きわまりない計画にもかかわらず、なお解明しなければならぬ幾多の問題を残しています。粕谷君がいるかぎりこの工事は大丈夫だと私どもは安心し切っていましたが、君亡き後、私どもは駕馬に鞭って君の遺志を完成しなければならないこととなりました。同じ土木工事で橋梁架設のようなものは派手でもあり、比較的容易でもありますが、トンネル工事は暗黒の中で変化きわまりない自然と戦うもので、地味でもあり、またきわめてむずかしい仕事でもあります。粕谷君のような地味な粘り強さがないと、とても成功するものではありません。

今さら詮ないことながら、惜しい男を亡くしたものとつくづく考えさせられます。

粕谷君は山を愛し酒を愛する大らかな性格で、いささかも自分を宣伝するようなところがなく、先輩後輩同僚の誰彼からも愛されました。気の合った友達と酒を飲み興到れば軍歌を高唱した好漢粕谷君は、最早永遠に私どものところから去りました。

粕谷君は奥さんのほかに、4人の令息を残されましたが、長男の忠則君はすでに社会人として親父と同じ土木の道を進んでいます。親父の優れた血を受け次いだこの4人の令息が、親父以上に立派に成長完成されることこそ故人の願いでもあり、また私ども同僚の祈りでもあります。

日本の土木技術

100年の発展のあゆみ

第二版発売中 上製箱入

A 5・490ページ 1200円 千110円

●お申込みは土木学会へ……一括注文は御相談ください●

土木学会が創立50周年(1964年)を記念して出版した土木技術史で、若い技術者とくにこれから土木工学の真髓をきわめようとする学生諸君のためには絶好の読物といえる。

I 土木技術と国土の開発 II 水の利用と水との戦い III 交通路の整備 IV 都市の建設 V 材料の進歩と構造技術の進展 VI 基礎技術の進歩 <年表および索引つき>